

未来の水の惑星を守るために

喜界町立喜界中学校 二年

瀧元たきもと

楓かえで

お風呂に入る時、料理をする時、掃除をする時、私達は水を毎日当たり前のように使っている。しかし、この当たり前は、他の国では当たり前ではなく、また、水は有限なのだ。日本では、水道の蛇口をひねれば、いつでもきれいな水が出てくる。しかし、ある国では、水が茶色く汚れていて一日ペットボトル三本分しか使えない所がある。こうやって自由においしい水が飲めるのは幸せなことなのだ。

私は、先日ある番組を見た。それは、わずかな水しかなく、十分な食事もとれない人達が出ている番組だった。私は、必死に生きている彼らの姿を見て、思わず自分の目を、疑った。こんなに小さな子供から大人までみんなとてもやせていて手足も細い。私は心が痛くなった。この人達が私達の生活を見たら、どう思うか。私達の生活を見直すと、水の無

駄使い、電気の無駄使い、食べ残しなど直していくべきことがたくさんある。

また、水の問題がそのように国だけではない。工業などが盛んだったり、発展している国々では、山などをけずって建物を建てたり、交通量が多いため空気が悪かったり、地球温暖化や酸性雨などの原因となっている。それによって、海水面が高くなったり、大雨、強風など異常気象が起こったりして、人々の生活が困難になっていっていると思う。そんな中、私達の町がこのような状態にならないためにどうするか、水について私は考えてみた。

そもそも、水は海などから蒸発して曇となり、そして雨や雪となって川から、また海へと循環してきたものだ。そこから、災害が引き起こされたり、人は知能が発達していき、より暮らしやすくするため、さまざまなものを開発してきた。日本人の主食である米、文化。それらは、水があるおかげで、稲も育つし、動物が水を使って成長し、命をつなぎ、

なにかを作り出すことができる。つまり、水は歴史をつないできてくれて、また、食物連鎖を成り立たせてきてくれたものだったのだ。

歴史をつなぎ、命をつないできてくれた水。その水が起こす災害にどう対応していけばいいか。

私は、一人一人が災害を起こさないよう、環境を守っていくための活動などをし、防いでいくしかないと思う。いくら堤防を作ったり、補強工事を行っても、環境が悪くなっていけば、たくさん人の命を奪ってしまうことになるかもしれない。

さらに、水は資源なので、無限ではない。水が無くなればどうなってしまうのだろうか。

想像してみてほしい。きっと、植物は育たず、さまざまな種類の動物が絶滅していき、人は生きていけなくなってしまうかもしれない。

私は、今まで水は有限であること、水がきれいなものが、当たり前ではないことなど考えたことがなかった。しかし番組を見て水のこ

とを考えるきっかけに出会い、私はこれから水が見つないできた歴史、命の存在を忘れず、有限である水を大切にし、この水の惑星を守っていききたいと思っている。そして、未来へとつないでいきたい。